

山行報告

■高御位山縦走（JR 曾根～JR 宝殿）

- 日 程：9月17日(日)
- 参加者：L森本 SL小田 生永 石井 一瀬 黒本 坂本 佐野 徳本 松本(聡) 山下
- 行動記録：曾根駅9:00 発～豆崎登山口(9:10 着)～地徳山手前引き返す(10:00 着)10:05 発～中所登山口(10:40 着)～鹿島神社大鳥居(11:00 着)11:25 発～市ノ池登山口(11:35 着)～経政神社(昼食)(12:05 着)12:30 発～奥長尾登山口(12:45 着)～長尾天満宮(12:50 着)13:05 発～長尾新池駐車場(13:20 着)バス 14:02 発～宝殿駅(14:20 着)

◆9月の縦走は暑すぎる。。

一瀬

9月になると酷暑もおさまり登山の季節だろうと思い申し込みました。

朝、晩は涼しくなってきたものの日中は30度越え。当日は湿度が高く熱中症が気になる日和となった。リーダーの森本さんがポイントごとの資料を用意され、まず1番目の「豆崎登山口」の案内板を確認しながら入山。地徳山を目指し進む途中、大きな蜂が飛び、集まっている。

地面に巣があるのか？危険！

何故か1名、蜂さんをよけて進んだ。過去に刺されず進んだという経験からの行動。

あなたならどうする???

このような状況は初めてで、もしかして山遊会は行くのか！？リーダーの判断は“引き返す”でした。私は春先に何かに刺された経験があったのでホッとしました。

命がけの山行は辞めよう。。

来た道を分岐点まで戻り中所方面に下った。住宅地を歩くと暑くて今から登る？気力がい

とりあえず鹿島神社のバス停で別れた1名と合流し今からのルートを話し合った。

朝から見かける試験運行中「市ノ池・高御位山」じょうとんミニバスを利用することになった。ナイス！とにかく暑すぎる！

市ノ池→経政神社(昼食)→長尾天満宮(参拝)→長尾バス停(乗車)→宝殿駅

今日は暑すぎた！蜂さんのおかげで熱中症にならず皆さんと話しをする元気も時間もありません。ルート変更などの柔軟な対応をしてくださり面白い山行となりました。

「本当はあの山を登っていたんだよな～」と聞いてまたチャレンジしたいと思いました。

皆さん、高御位山縦走は2月頃かしらね。

最後に、黒本さん無事でよかったです。



■小野アルプス・白雲谷温泉ゆぴかから縦走

●日 程：9月29日(金)

●参加者：A班 L春本 SL徳本 生永 一瀬 岡田(淳) 小野 松岡

B班 L瀧原 SL西脇 坂本 佐野 田中(重) 田中(由) 福田 本田

●行動記録：ゆぴか 7:50 発～高山(8:02 着)8:10 発～日光峠(8:25 着)8:27 発～前山(8:37 着)8:45 発～愛宕山(8:55 着)8:57 発～安場山(9:10 着)9:11 発～アザメ峠(9:38 着)9:40 発～総山(9:55 着)10:00 発～アンテナ山(10:18 着)10:20 発～惣山(198.9 (10:32 着)10:40 発～紅山(11:50 着)12:00 発～紅山登山口 12:15 発～鴨池バス停 (12:35 着)

◆小野アルプス再び～目指せ紅山

岡田(淳)

一年前、入会して二度目の山行が小野アルプスだった。鴨池からゆぴかまでの縦走で、後半の上り下りの繰り返しがとてもきつかったのを覚えている。まさに低山を侮るなかれだった。巨大な岩壁の紅山も、初心者中心の私の班は脇の迂回路を登った。(これはこれでけっこう登りにくかった!) 険しい岩場を登られる先輩たちの姿に感動したものだ。

一年間、熱心にはと言えないまでも、それなりに山行に参加したりトレーニングしてきた。少し自分を試す気持ちと紅山をちゃんと登りたいという気持ちもあって参加した。

田中陽希さんおすすめというストレッチをして、朝7時50分にゆぴかを出発。昨年とは逆コースで、高山、日光峠、前山と進みながら、去年はこの辺が一番しんどかったなあと思い出す。愛宕山、安場山と続く道の所々で、可憐なピンクの花を咲かせた萩に秋を感じる。まだ暑いけれど、吹く風は爽やかで心地よい。リーダーの配慮でこまめな休憩があり、疲れをあまり感じずにすんだ。

アザメ峠で道路を横切りいよいよ小野アルプスの核心部に入ると、道も次第に険しくなってきた。総山を経てアンテナ山でほっと一息。美しい山並みが見渡せた。

そして、この日の最高峰惣山(小野富士198.9m)に到着。頂上の標識に「日本一低い小野アルプス」と書かれているのが微笑ましい。少し離れた展望デッキからの眺めはすばらしく、遠くは淡路島の島影、左前方の明石海峡大橋が美しい。吹き渡る風も爽快だ。いつも思うのだが、播磨の山はかなり内陸からでも瀬戸内海が眺められるのが大きな魅力だ。

展望デッキから一旦下り、いよいよ紅山へと向かう。紅山登山口からはこの日一番の急登だがそんなに長くはない。一気に目の前が開け、眼前に紅山の巨大な断崖が現れた。圧倒されそうな迫力だ。見上げるとかなりの高さを感じられる。登れるかなと一抹の不安がよぎるが、リーダーの「今日は真ん中を登るよ。」の一声で、全員の気持ちが岩に向かう。リーダーと写真係のTさんは最後尾から撮影をしてくださるので、経験を積まれたFさんを先頭に登っていく。私はFさんのすぐ後ろだ。最初は緩やかだった傾斜が途中から一気に険しくなり、両手両足をフ





ルに使い一手一足慎重に動かし、ついに紅山（182.8m）山頂に到着！やったね(^0^)。最高の達成感と満足感に全員最高の笑顔で記念撮影ができた。山陽道とそこを走る車が眼下に見える。高速道路の走行音ってこんなに上に響くのだ。

さあ最後の下りだ。段差の大きい階段が続く急な下りなので油断大敵、転ばないように心して足を運び無事に登

山口に到着。

下山後はストレッチをして現地解散。私はらんらんバスでゆぴかに戻り、昼食後温泉でゆったり汗を流し天国天国。

ところで、去年よりも楽に歩けたのはトレのおかげか逆のコースのおかげか、さてどっちなんだろう？少し自信もついた楽しい山行となり、ご一緒できたみなさんに感謝感謝。

■東北の震災跡地を再訪・栗駒山・蔵王山 ゆっくり隊と一般隊合同で

●日 程：10月8日(日)～10日(火)

●参加者：ゆっくり隊 L垣内 SL待場 大谷 田中(重) 田中(由)

一般隊 L高島 SL尾内 小田 笹木 島谷 中村 三木(悦) 村上

●行動記録

(9日)：

ゆっくり隊：いわかがみ平登山口 6:10 発～1408 地点(7:15 着)7:23 発～中央コース分岐(7:50 着)7:55 発～栗駒山(8:08 着)8:25 発～途中休憩(9:35 着)9:40 発～いわかがみ平登山口(10:00 着)

一般隊：いわかがみ平登山口 6:10 発～1408 地点(7:10 着)7:15 発～中央コース分岐(7:40 着)～栗駒山(7:50 着)8:15 発～中央コース分岐(8:25 着)～いわかがみ平登山口(9:20 着)

(10日)：

ゆっくり隊：地蔵山頂駅 9:23 発～わさ小屋跡(9:57 着)10:00 発～馬の背(10:50 着)～避難小屋(11:02 着)11:10 発～熊野岳(11:25 着)12:00 発～地蔵山頂駅(12:58 着)

一般隊：地蔵山頂駅 9:15 発～わさ小屋跡(9:40 着)～熊野岳(10:25 着)10:35 発～馬の背分岐(10:45 着)～苧田岳レストハウス(11:15 着)11:55 発～馬の背分岐(12:30 着)～熊野岳避難小屋(12:35 着)12:45 発～蔵王地蔵尊(13:25 着)13:30 発～地蔵山頂駅(13:35 着)

◆復興を見届けに

垣内

2023, 10, 08

仙台空港から3台のレンタカーでいしのまき元気市場に向かいました。この市場には県内のいろんなものが売られていました。珍しいホヤや今話題の鮮魚コーナーもありました。お昼は

ここの元気食堂で食べました。混み合っていましたでしたがリーダーが予約してくれていたのですムーズでした。この賑わいは続いてほしいと思いました。

東北大震災後ボランティアで行った宮城県のその後はテレビ、新聞などで報道されているので、ある程度はわかっていたが自分の目で確かめたいと思申し込みました。あとで復興の街を見るだけで無く登山もあるというのでラッキーと心でガッツポーズ。ボランティアに来たときも宮城県連の岡さんに近くの山に案内してもらいキノコを採った思い出があります。味噌汁にして皆で食べました。

いしのまき大震災まなびのボランティアさんが助手席に座り、Cコース150分のコースを案内してもらった。

私たちがボランティアに来た最後の日は閑上、女川、雄勝、大川小学校へ砂川会長たちと来たとき案内人はいなかったが津波の去った黒い土地や至る所の黒い土囊、倒れたままのビル、津波が上ってきた川に遡上した鮭が死んでいるのを無言で見つめた。

今回は案内の人と大川小学校へ来た。震災遺稿として整備されていました。教室にあった物もなくなり運動場はならされて壊れた校舎等が残され献花台があり、驚くほど整備されていました。

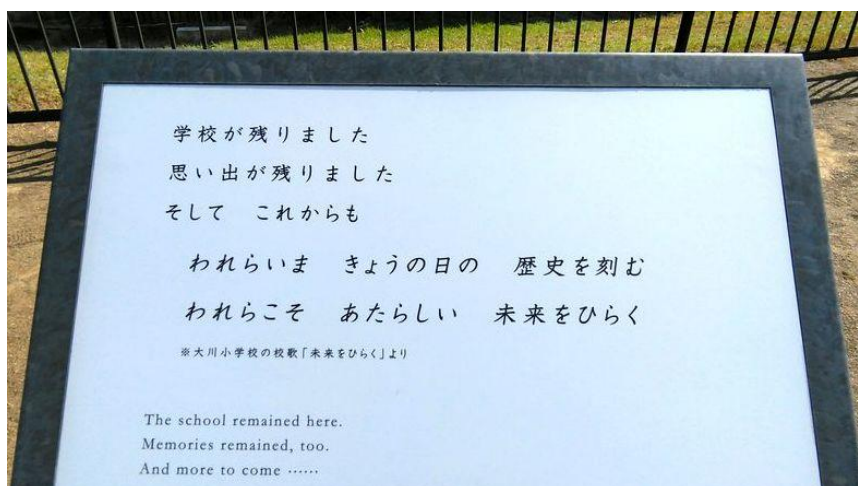
ここで74名の子供たちが亡くなったと思うと胸がつまった。同時に何故と疑問に思っていた。どうして運動場に整列させたままで裏山に逃げなかったのか、山に逃げろと言わなかったのか。それがとてもくやしい。津波発生から45分も時間があつたのに。今裁判がおこされているので結果は司法にまかせるとしよう。

今回小学校の裏山に登ることができた。校舎の裏側にあり子供たちなら楽々とのぼるだろう裏山に登り被災した校舎や川を見ることができた。椎茸栽培の体験場もこの山にあり子供たちは登っていたとのことでした。またしても何故という言葉が出てくるのです。運動場にいた子供たちは押し寄せてくる黒い津波をどんなに恐怖の目で見つめたのだろう。失われた命は帰ってこない。運動場そばに大川震災記念館が建てられている。ここでしっかり津波の時は高台に逃げると言うことを伝えてほしいです。また災害は全国どこでもおきるいま、生き抜く方法を学んでほしいです。

最後は被災地を国が買い上げ公園にした中に立つ宮城東日本大震災津波伝承館へ行きました。この建物の屋根の高さまで津波がきたそうです。車の中で案内人は指をさしあれもそれも復興住宅ですと教えてくれた。嵩上げされた土地にあたらしく家はたち復興住宅の並ぶ市内を走りつつ案内人は復興工事のダンプカーをいち早く送ってくれたのは兵庫県だったと笑顔で言われました。また嵩上げの土をとった山は広大なソーラー発電施設になっているとも教えてくれた。

高速を走っているときに見えました。

復興した街にはいろんな思いを持ちつつ生活をされている人がいてその思いや体験を次の世代に伝えてほしいと思う1日で



した。

◆冬支度まっしぐらの栗駒山と蔵王

中村

石巻を離れ、高速道路を一路北へ向かうと、左遠方に大きな山塊が…「あの山は？」まさに栗駒山だった。東北は収穫の秋真っ最中、「ほんにょ」と呼ばれる稲杭が立ち並んでいる田んぼをひたすら眺めながら、山麓に到着する。

翌朝、栗駒山はすでに視界不良で風雨の予報。石畳の登山道が続く。登山者が多いせいか、登山道両端の土砂の崩落が目立つ。凍えたリンドウを2-3株見かけるが、野花の姿はない。何とか頂上に立つが、残念ながら「神の絨毯」と言われている景色にはお目にかかれなかった。

翌々日の蔵王も、合羽を着て出発。噴煙が立ち昇ってはいないものの蔵王は活火山。ロープウェイを降りたら、山並みが崩壊したような荒涼とした世界。風雨の真っ只中、最高峰の熊野岳へ。この辺りは、夏にはコマクサが一面に咲いていたらしいが…本当に恨めしい。馬の背と呼ばれているが、平らな火口の縁をまわって、レストハウスへ。ピストンで戻る途中、緑色のお釜が姿を見せるかと期待したが、霧はいつまでも立ち込めたままで切れることはなかった。東北の2座は、冬支度まっしぐらの霧・風雨に見舞われた厳しい天候だった。それでも、道迷いすることなく、気丈に山歩きできたのは、リーダーの導きとメンバーシップがあったからと思ひ皆様に感謝したい。ありがとうございました。



■高森ボランティア報告 須増

- 日 程：9月16日（土）
- 集合場所：ウエルネスパーク駐車場・午前9時集合
- 活動場所：東駐車場（少年自然の家の東側）の登山口から相ノ山へのルート
- 行動記録：午前11時ごろ終了
- 参加者：合計15名（内訳：高御位山遊会9名 + HCはりま6名）
（高御位山遊会：生永 一瀬 内海 小野 佐々木 須増 春本 平石 森下）



この日は猛暑で朝から大変暑く、飯盛山まで行こうという人は誰もいなかった。作業終了後、旧アクア交流館およびソーラーが設置してある登山口へ下山しました。「HCはりま」の方々と合同で行えたことは良かったです。

